

ふるさとやまがたの課題に立ち向かう グローバルリーダーの育成(発表資料)

グローバルな視点を持ち、
地域の困難な課題に立ち向かう
イノベーター



ふるさと「やまがた」に思いを
寄せながら、世界や国・地域で
活躍するグローバルリーダー



令和元年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業【グローバル型】

山形県立山形東高等学校 発表者 教諭 佐々木 隆行 (教育企画課長)

1 本校の概要

- 1 山形県内随一の進学実績を誇る進学校
- 2 創立137年の伝統校
- 3 平成30年度より普通科と探究科を併設
- 4 全校体制で探究活動(探究型学習、課題研究など)

2 本校における本事業の位置づけ

	山形県	本校	文部科学省
平成27年度	探究科設置計画公表 「チャレンジSGH事業」	「チャレンジSGH事業」指定校 希望者制「山東探究塾」	スーパーグローバル ハイスクール(SGH)事業
平成28年度	「チャレンジSGH事業」	SGHアソシエイト指定校 希望者制「山東探究塾」・教育企画課発足	同上
平成29年度	山形県探究型学習推進 ・中核教員育成事業	SGHアソシエイト指定校 希望者制「山東探究塾」	同上
平成30年度	山形県探究型学習推進 ・中核教員育成事業	SGHアソシエイト指定校 探究科設置、「山東探究塾」全生徒対象	同上
令和 元年度	山形県探究型学習推進 ・中核教員育成事業	「地域との協働による高等学校教育改革 推進事業【グローバル型】」指定校	地域との協働による高等 学校教育改革推進事業
令和 2年度		同上	同上
令和 3年度		同上	同上

3-1 申請時における本校の課題と方向性

(1) 郷土愛の育成および多様な資質・能力の伸長

大学等への進学指導に重点を置くあまり、地域課題を知り、グローバルな視点を持ちながら地域課題を考える機会や、課題解決を試みるような取組を、学校としてほとんど行っていなかった。社会情勢の変化などを受け、本校が変革すべき方向性を考えた時に、『郷土愛』を育んだり、『多様な資質・能力』を伸長させるためには『地域との関わり』や『学びの実践の場』が必要なのではないかと考えた。

(2) 地域と協働した学び

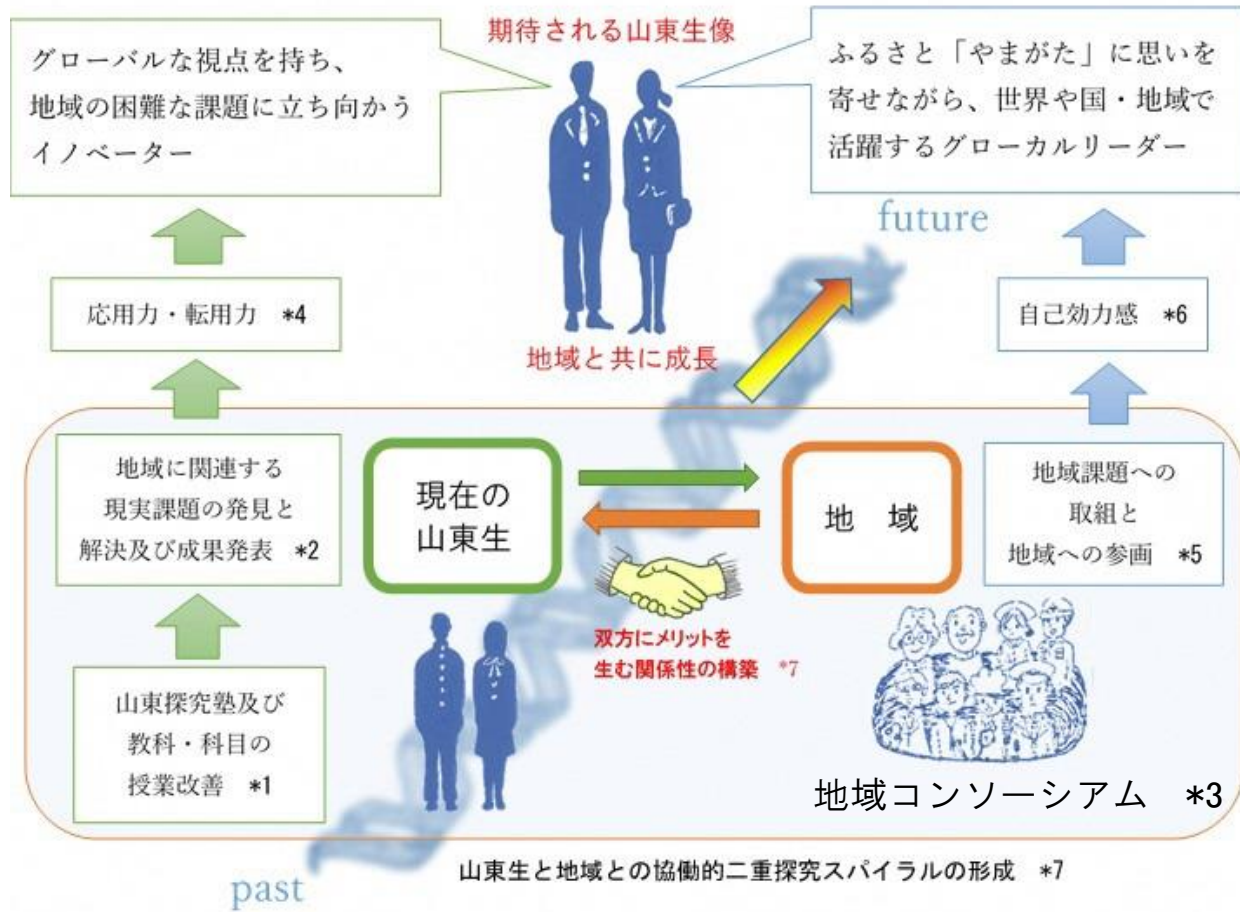
希望者制「山東探究塾」(総合的な学習の時間)で、探究活動の実践にも取り組み始めたが、地域の行政機関や専門機関、大学等研究機関の協力が不可欠で、『地域と協働する体制の構築』が急務だと気づいた。地域と協働する探究活動と探究型学習をプログラム化し教育課程に反映することで、求められる人材育成が可能になるのではないかと考えた。

(3) 山形県における学校間の協働した学び

本校が県内の普通科高校の『カリキュラム・モデル』となることは、より多くの地域人材育成を促し、様々な事業における学校間の協働した学びにつながるのではないかと考えた。

3-2 輩出すべき人材像のモデル

～ Be an Explorer, an Innovator, and 「山東生」! ～



進学校としての学校目標の達成を目指すとともに、地域がもとめる人材像を再確認し、地域からの理解と協力をもとめた。

1 地域と協働で現実課題に取り組むことにより、困難な課題を克服する応用力・転用力の伸長。(課題解決力)

2 地域との関りや授業・海外研修などにおける学びを通じて、社会を俯瞰する視点の獲得。(グローバルな視点)

3 地域への参画や貢献を通じて、自己効力感や郷土愛を醸成。(グローバルリーダーとしてのマインド)

4-1 学校と地域の協働体制の構築（区分）

本校の卒業生の進路は非常に多岐に渡るため、探究活動のテーマは、「自らの在り方生き方」に沿ったものとしている。そのため、本校職員だけで指導することは困難であり、外部有識者の協力が不可欠であった。そこで、連携可能な機関や個人を開拓していった結果、現状では下記のような体制になっている。

区分	組織名	連携方法
「教育連携協定」締結機関	東北芸術工科大学、山形大学、山形市	担当者を通じて依頼
連携協力機関	公益社団法人 山形県観光物産協会、山形経済同友会	担当者を通じて依頼
研究助言者	* 下記は今年度の例、年度により変化あり。 JICA東北山形デスク、山形県立産業技術短期大学校、 山形県みらい企画創造部、山形県防災危機管理課、 山形県警察、オガル(株)、(株)キャリアクリエイト、 (株)デジコンキューブ、(株)山形テレビ、 やまがた福わたし(フードバンク山形)、 認知症の人と家族の会、高揃薄荷爽草の会 等、多数	必要に応じて教員 または生徒が依頼 * 生徒が依頼する場 合は担当者が指導し てから

4-2 学校と地域の協働体制の構築（経緯）

1 探究活動推進のため、学校として連携を依頼したケース

…東北芸術工科大学、山形大学、山形市、県観光物産協会、東北大学、JICA東北

2 生徒が自ら協力・協働の依頼をした機関や人材と繋がったケース

…山形市文化振興課創造都市推進係・JICA東北山形デスク、他多数

3 教員が研修・自己研鑽する中で人材に繋がったケース

…i.club・小川氏、上智大学・奈須先生、山形大学・森田先生 等

4 「山東探究塾」に関わった方々の紹介で繋がったケース

…山形経済同友会、オガル(株)、(株)キャリアクリエイト、(株)山形テレビ 等

* 連携交渉時のポイント:①高校生の本分から外れない。②お互いのメリットの確認。③生徒の研究を請け負わない。

4-3 地域と協働して取組んだグローバルな先進事例

令和元年度	令和2年度(コロナ禍)	令和3年度
<p>『アフリカの農業改善のための 土壌改良剤の提案』</p> <ul style="list-style-type: none">* 文理融合* 現地調査と実験による検証* 大学のみならず、JICA東北山形デスク等、地域の機関の協力を得ながら活動 <p>→翌年の『ザンビアにおける農家世帯レベルでの飢餓の解決に向けて』へ引き継ぎ、実践される</p>	<p>『ユネスコ創造都市ネットワークの視点から高校生の地元愛を育む』</p> <p>(H30～の取組を集大成)</p> <ul style="list-style-type: none">* 山形市のファンドから資金を得る* 他のユネスコ創造都市の高校生に同様の活動を広めるためのオンラインミーティングを主催	<p>『山形ハッカを広めよう』</p> <ul style="list-style-type: none">* 高揃班(ハッカ栽培・宣伝・教育)と、商品開発班に分かれて活動* 徐々に活動の幅を広げた。また大会等を地域から県内へ、県外・全国・シンガポールに向けた発表へと広げていく <p>※様々な機関の活動や仕事に波及(巻き込み力)</p>

5-1 本事業における成果

～本校カリキュラム（山東探究塾）の構成と特徴～

- ① 1年次:探究スキルなど基礎の習得 2年次:探究型課題研究実践 3年次:自らの進路に関連する自己探究
- ② 山東探究塾は、総合的な探究の時間を中心とし、教科「情報」(探究スキル)、LHR(キャリア教育)と連動して運用
- ③ 探究型課題研究のテーマは、『自己の在り方生き方(進路、興味・関心、適性)』に沿ったものを生徒が模索
- ④ 文理融合・領域横断を認める(文系理系それぞれの生徒が合同で活動する事も可)
- ⑤ グループ研究か個人研究の選択
- ⑥ 複数プロジェクトの同時進行を認める
- ⑦ 弟子制度(2年次の活動に希望すれば1年次から参加可能)
- ⑧ 課外活動などでさらに研究を深めたい場合は、探究部として活動も可能
- ⑨ 教員は基本的に伴走者であり、教え過ぎない(進捗把握が主であり、生徒の安全確保や外部交渉の補助も行う)

山東探究塾の基本的スタンス

- ・現実の課題に対し、粘り強く解決を試みる場
- ・主体的に取り組み自己の嗜好や適性を知る場
- ・安心して失敗でき、挽回の機会がある場(3回の発表)
- ・社会の仕組みや自己の活かし方を知る場

5-3 本事業における成果

～ 成果の総括 ～

(1) 郷土愛の育成および多様な能力・資質の伸長について

3年次の自己探究や進学指導時において、多様な資質・能力が育っていることが感じられた。特に、課題解決のサイクル（探究サイクルなど）を実生活に活かす生徒が増えた。また、複数の視点（グローバル、俯瞰など）で物事を捉えたり、リソース（人、もの、資金、時間）のマネジメントができる生徒や分野・領域横断型の発想と進路希望を持つ生徒が以前より多くみられるようになった。山形県や地元に関する理解も以前より深まっており、将来、山形県に貢献する生徒に育っていることを期待する。

(2) 地域と協働した学びについて

学校と地域の協働体制を構築することができた。学校としてのメリットはもちろんあるが、協力していただいている機関（大学、行政、民間）が増えてきていることから、メリットも生じてきているのではないかと。今後も内容を精査しながら持続可能な学びの場を維持していきたい。

(3) 山形県における学校間の協働した学びについて

県内の多くの学校の先生方が本校の研修会や発表会に参加し、取組内容を研修するとともに、県外の高校も学校視察に訪れている。県内外の学校と協働した学びの場が形成されつつあり、今後も期待できる。